

書評

医療放射線防護の常識・非常識

医療現場の声から世界の流れまで

京都医療科学大学教授・大野和子、南京病院
放射線科副技師長・粟井一夫 編著
B5判並製 2色刷 196頁 2500円(本体)
(株)インナービジョン(TEL 03-3818-3502
<http://www.innervision.co.jp>

本書は、必ずしも放射線医学を専門としていない医療従事者を想定して、医療放射線防護に関する正確な知識を提供することを目的として出版されたものです。しかし、評者のように放射線医学を専門とする者が読んでも十分読み応えがある知識と情報が要領よくまとめられています。「休憩時間に斜め読みできる内容」と編者自身が述べているように、記述が平易でQ&A形式であるため、私は面白い読み物として一気に一日で読破ってしまいました。「常識・非常識」というタイトルですが、常識と思われていて、実は非常識なのは本書でも取り上げている「10日間ルール」でしょう。ICRP勧告からは撤廃されたにもかかわらず、「常識」としてしぶとく生き残っています。

編者の大野和子さんは、医師として放射線学会に寄せられる医療放射線に関する質問的回答を担当されているそうです。本書では、患者さんや一般の方からの色々な質問に対して「質問者の不安を解消するには」という観点で回答方法を示しています。質問者が何を不安に感じているのか相手の立場に立って、むしろ具体的な数値は避けて、わかりやすく説明することを勧めています。「妊娠

と知らずにX線検査を受けたのですが、奇形や異常の心配はないでしょうか、中絶すべきでしょうか?」という質問に医療従事者の皆様はどうお答えになりますか。

もう一人の編者である粟井一夫さんは医療診療放射線技師として、これまでこの問題に真摯に取り組まれてきた方です。「いま、医療の現場では(第二章)」ではもっぱら医療放射線の線量測定に紙幅が割かれています。現場でどのように線量測定すればよいか具体的に示すとともに、X線装置周辺の線量分布など、患者さんの被ばく線量の把握や医療従事者の被ばく管理に不可欠な実測データが示されています。この章では、診断目的の放射線で皮膚炎や潰瘍などの障害を生じうる例としてIVRが取り上げられています。診断目的の被ばくで、確定的影響が生じた例が少なからずあることに驚かされました。

第五章では、「医療放射線安全文化の醸成に向けて」と題して、放射線を用いる医療行為の正当化と被ばく線量の最適化について扱っています。医療被ばくは、その行為が正当であれば線量限度が適用されることになっています。しかし、その検査が本当に患者さんの利益になっているのか、検査をオーダーする側の放射線に関する知識の有無、装置の品質管理など、「正当化」にはいくつかのクリアすべき条件があることを編者は主張しています。声高に放射線検査の利益だけを主張するのではなく、このような医療放射線安全文化の醸成に向けた態度に共感を覚えました。

評者 東北大学加齢医学研究所教授 福田 寛

§「第 10 回癌と骨病変研究会」開催のご案内

日 時：平成 19 年 11 月 17 日(土)

9:30 ~ 17:30(予定)

場 所：癌研有明病院 吉田講堂・セミナー室

東京都江東区有明 3-10-6

代 表：松本 俊夫

徳島大学大学院 ヘルスバイオサイエンス研究部 生体情報内科学 教授

参加費：5,000 円

一般演題募集：5 月中旬頃より募集を開始いたします。

募集要項等、詳細はホームページをご覧ください。

<http://ns1.sec-information.net/jscbd/>

研究会 URL: <http://www.sec-information.net/jscbd>

事務局：株式会社 グラフティ 内

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-20-2

ベル赤坂 1 階

TEL: 03-3583-1745

FAX: 03-3583-1741

E-mail: jscbd@graffiti97.co.jp

訃 報

山口 弾之 先生

日本核医学会 功労会員(平成 10 年 10 月 ~)

医療法人至誠会 至誠会病院

平成 18 年 9 月 11 日、逝去されました。

85 歳。

ご冥福を祈ります。